

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 住之江区

学 校 名 南港桜小学校

学校長名 高岡 繁樹

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南港桜小学校では、第6学年 81名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・全国平均と本校との平均正答率、平均無解答率のポイント差は、以下のとおりであった。

○国語	平均正答率・・・	+1.2	平均無解答率・・・	-1.8
○算数	平均正答率・・・	+2	平均無解答率・・・	-1.8
○理科	平均正答率・・・	+3	平均無回答率・・・	-2.1
- ・平均正答率は、三教科とも前項平均を上回った。国語では0.3ポイント、算数が2ポイント、理科では3ポイント上回ることができた。特に、算数科では昨年度は、全国平均を0.4ポイント下回ってたので、今回大きく向上したと考える。平均無回答率は国語で1.6ポイント、算数でも1.8ポイント、理科では2.1ポイントも全国平均より少なかった。無回答率も昨年度との比較において、大きく減少していることから、粘り強く取り組む姿勢が着実に身についてきている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

- 〔国語〕
- ・(2)情報の扱い方に関する事項と(3)我が国の言語文化に関する事項「A 話すこと・聞くこと」以外の項目においては全国平均を上回る結果であった。また、これまで苦手としていた「B書くこと」においても、昨年度と同様に全国平均を上回っている。引き続き、日常的に書く活動に取り組んできた成果として、着実な力の向上が見られる。
- 〔算数〕
- ・すべての領域において、全国平均を上回る結果であったことより、算数科における授業改善の成果が宅実に学力の向上につながっている。その結果として、昨年度は下回っていた全国平均との比較において、今年度は平均正答率が上回るという結果につながったと考える。四区分の割合を見ると、引き続き学力の二極化が本校の課題としてとらえられる。
- 〔理科〕
- ・令和4年度の調査との比較において、両調査とも正答率が全国平均を上回っているが、その差が令和4年度の0.7ポイントから令和7年度は3ポイントと全国との差が大きく広がる結果であった。また、無回答率も全国平均を大きく下回る結果から、専科教員による一貫した指導により、学力とともに粘り強く問題に取り組む態度が大きく向上したと考えられる。

質問調査より

自己を肯定的にとらえる項目において、全国平均を上回る結果が定着してきている。「自分には良いところがあると思いますか」の項目では、昨年度結果と同様に、肯定的回答の割合が、全国を8ポイント上回る結果であった。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」においても全国を4.8ポイント上回っている。このことより、引き続き子どもたちは、満足感や安心感をもって日々の学校生活をおくれていることがうかがえる。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の2項目では、肯定的に回答する児童の割合が100パーセントであった。このことより、他者に対して思いやりの気持ちをもつ子どもが多いことがこの結果からわかる。しかしふだんの様子から、意識が行動を伴わない場面も見えられることから、いかに行動につなげていけるかが、今後の課題のひとつとしてあげられる。

生活面での課題では、スマホ等の利用時間の多さがあげられる。本校では、以前から同様の傾向が見られた。スマホに依存しない楽しみ方として、読書活動の充実などの取り組みを進めている。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、対話的学習を通して学びを深めるための指導法の研究に取り組んでいます。

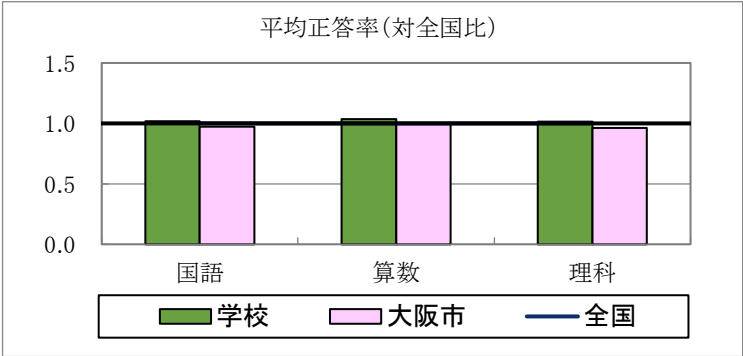
以下の3点を中心に、児童の一層の学力向上に努めていく。

1. 学習における目標設定と事前準備
学習内容に対する具体的な疑問や興味のポイントを複数リストアップする。対話の前に基本的な知識や用語を予習し、対話の土台を作る。
2. 対話実践
自分の考えを「なぜそう思うのか」という理由や具体例と共に明確に言語化して相手に伝える。また、相手の発言に対して「それはどういう意味か」や「〇〇という理解で合っているか」と質問を返すことを意識させる。
3. 内省と定着
対話終了後、「新しく学んだこと」と「まだ納得できていない疑問」を文章にまとめる。特に、相手に説明された内容を自分の言葉で要約することを意識する。
これらを実践していくことで、対話が単なる情報交換で終わらず、深い思考と理解の定着につながるような授業作りに取り組む。

【 全体の概要 】

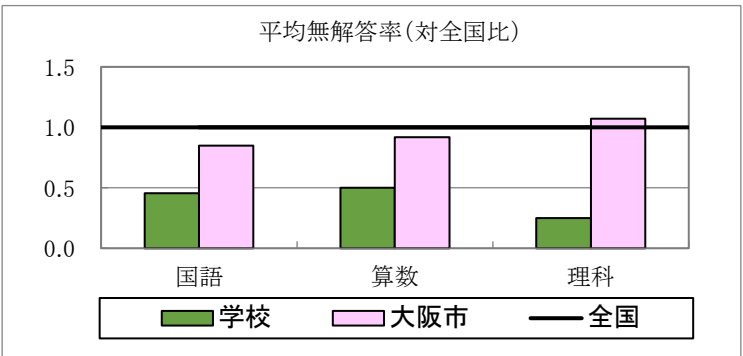
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	68	60	58
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.5	1.8	0.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

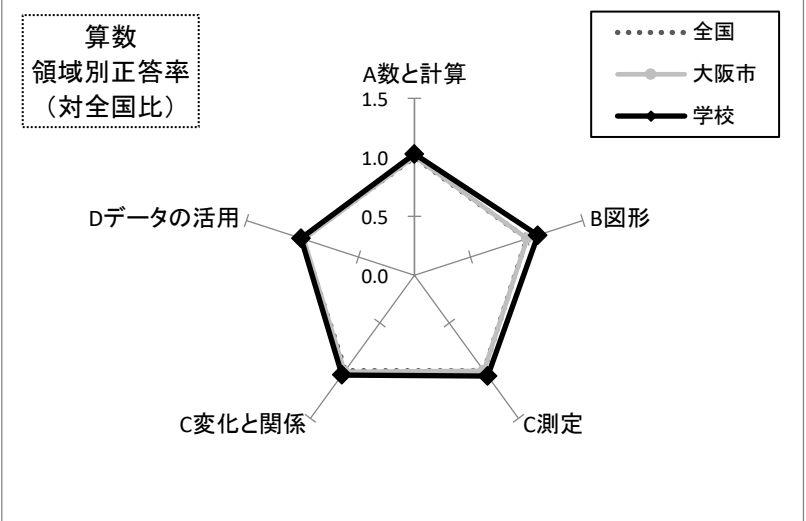
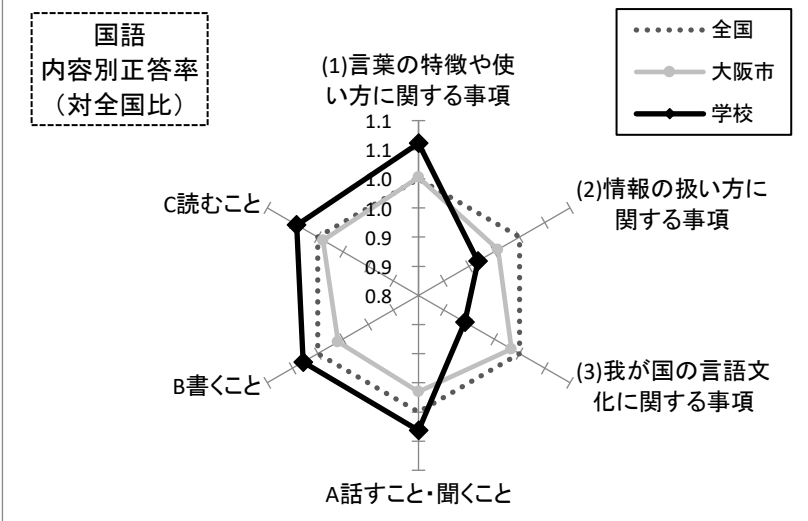
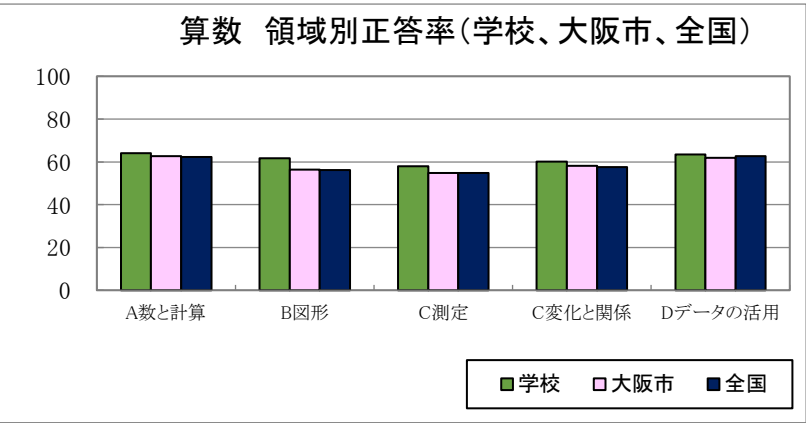
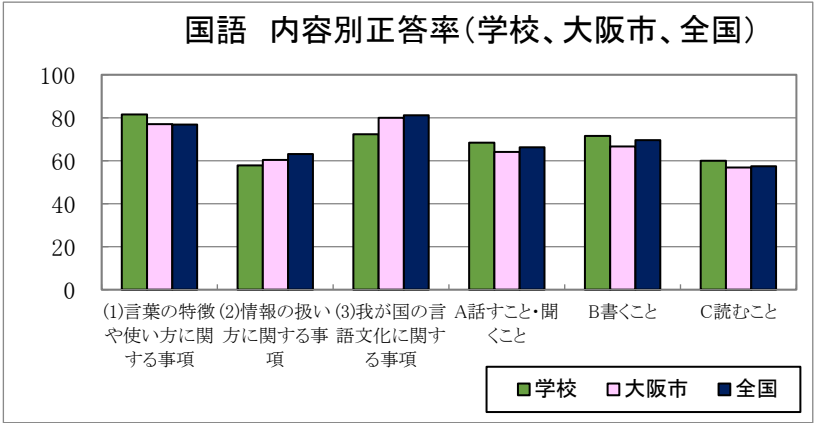


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	81.6	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	57.9	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	72.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.4	64.0	66.3
B 書くこと	3	71.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	59.9	56.9	57.5

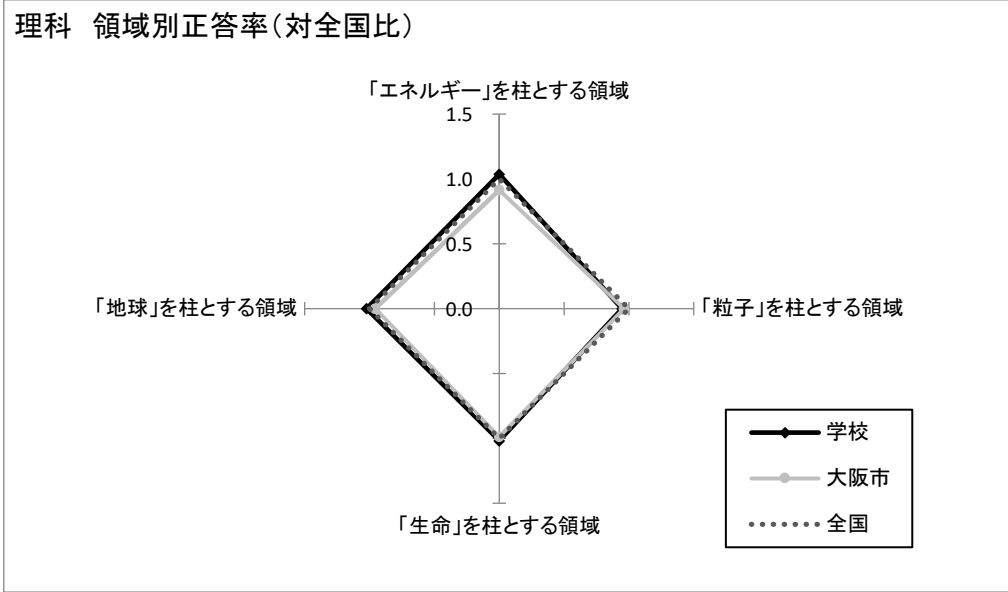
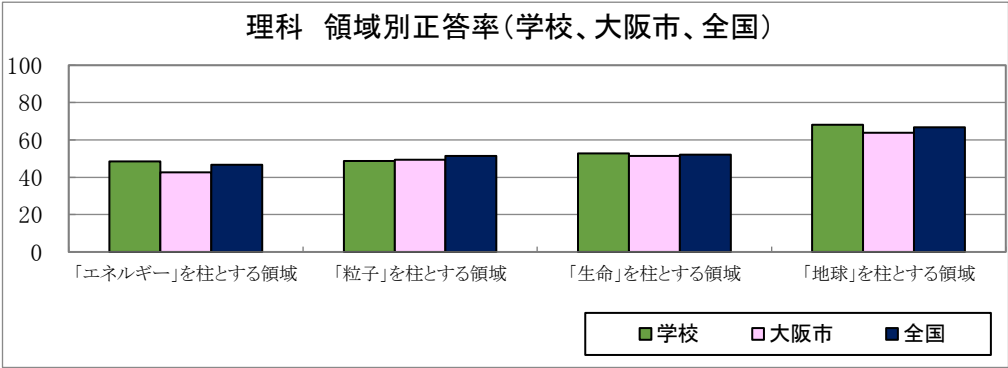
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	64.1	62.7	62.3
B 図形	4	61.8	56.4	56.2
C 測定	2	57.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	60.1	58.2	57.5
D データの活用	5	63.4	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	48.4	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	48.7	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	52.9	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	68.2	63.8	66.7

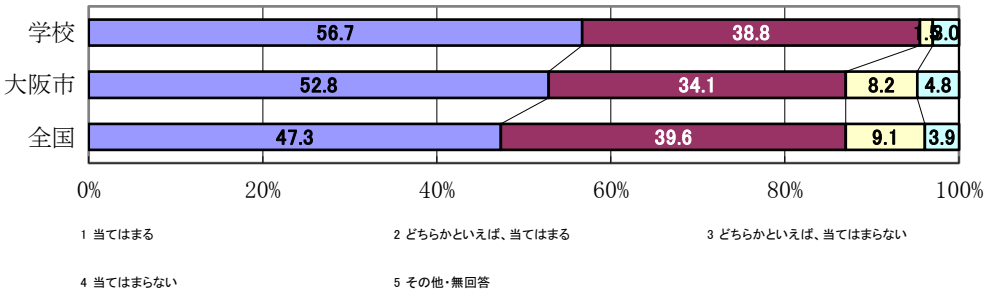


児童質問より

質問番号
質問事項

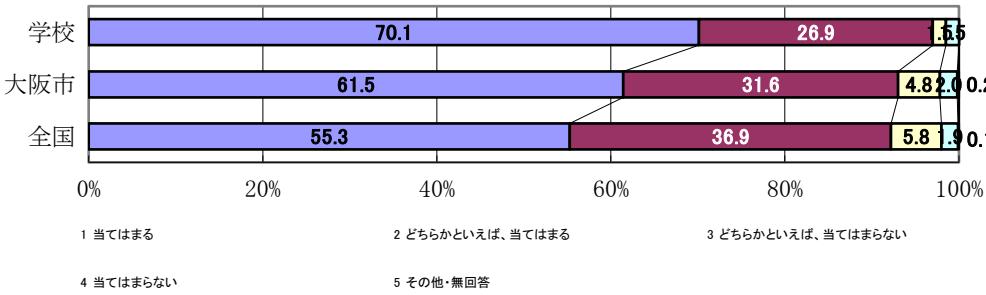
5

自分には、よいところがあると思いますか



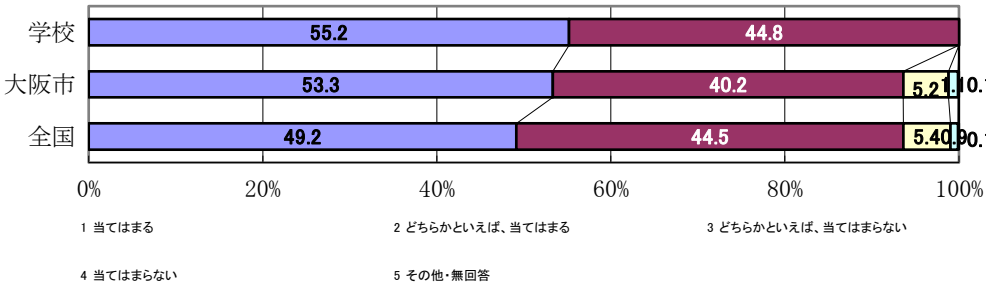
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



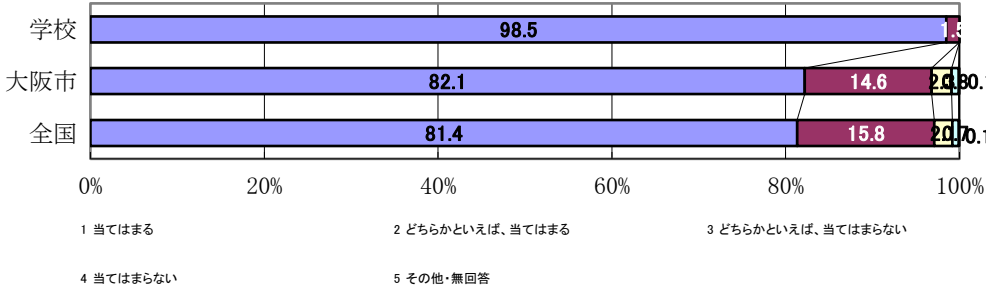
8

人が困っているときは、進んで助けられていますか



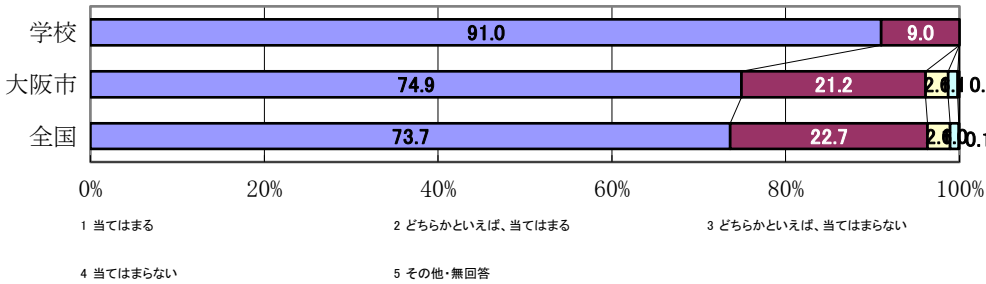
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



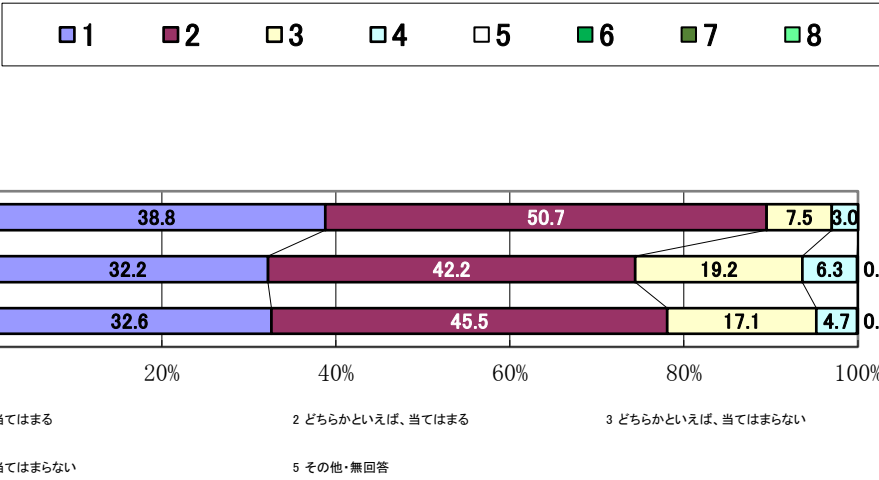
児童質問より

質問番号

質問事項

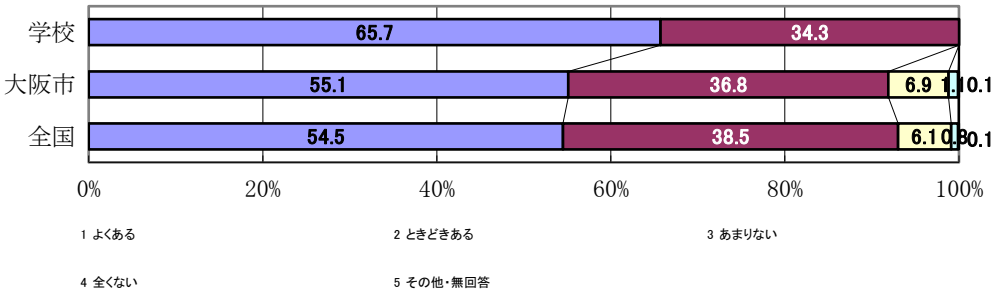
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



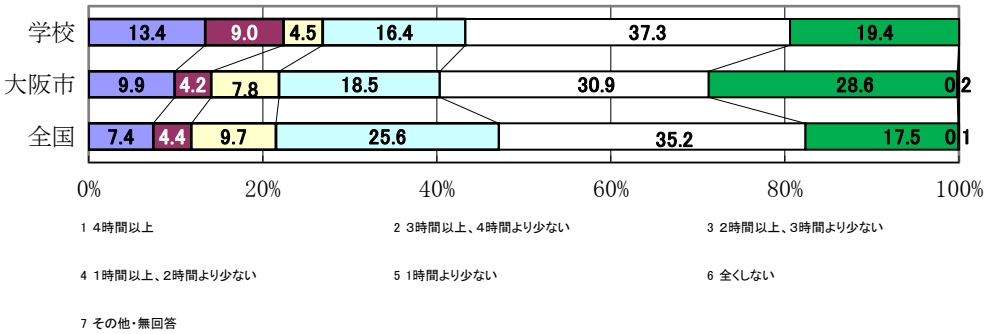
15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



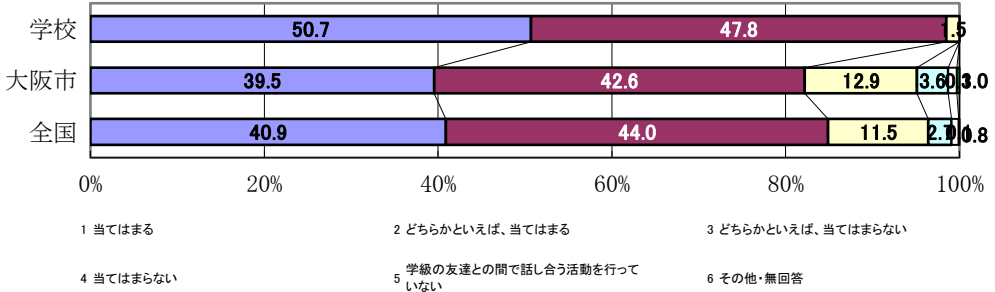
19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



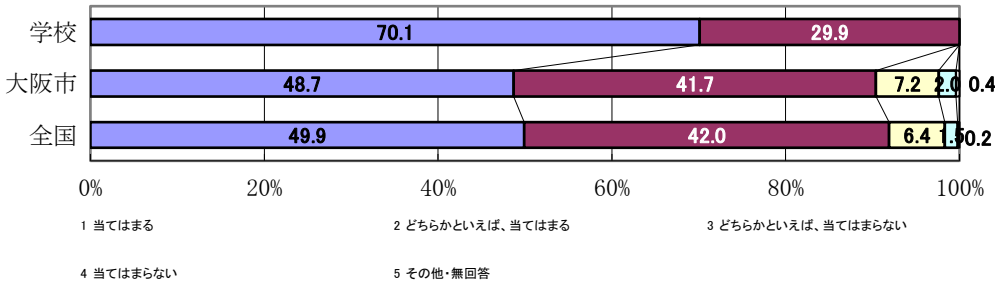
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



学校質問より

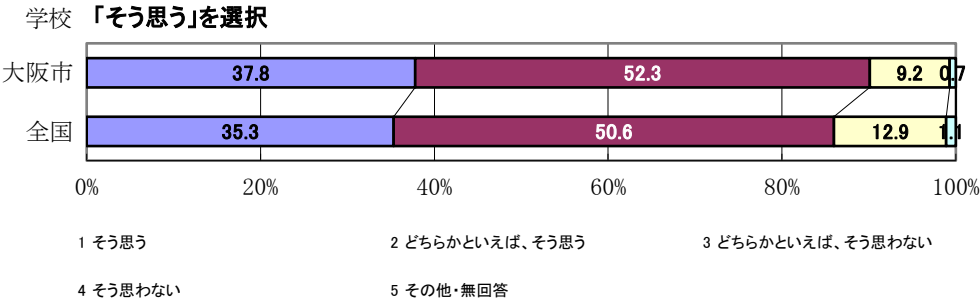


質問番号

質問事項

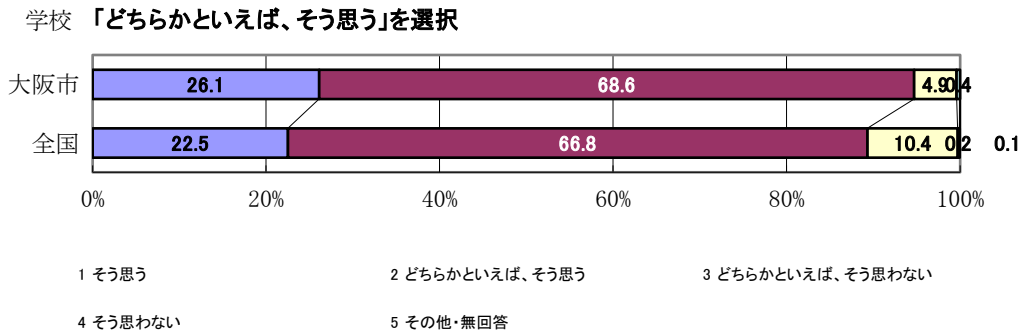
8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



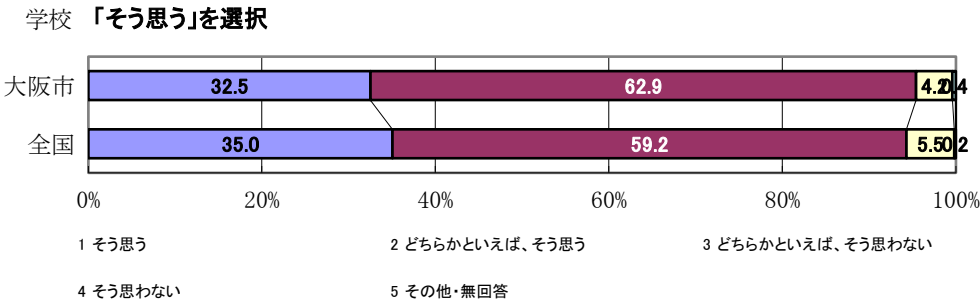
25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



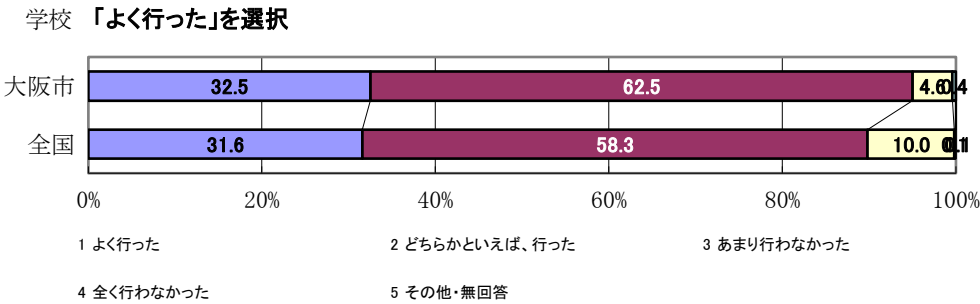
28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

